

認知症になっても安心して暮らせる 地域づくりのための研修会

特定非営利活動法人 認知症フレンドシップクラブ

〒162-0834 東京都新宿区北町35番地

助成事業の概要

実施目的：認知症フレンドシップクラブが各地域での実践を通じて築いてきたネットワークを活かし、日本において緒についたばかりの「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」をテーマとする研修会を開催し、認知症に関わる人たちやこれに関心のある人たちが課題や最新の実践事例を共有する機会とし、各地の取り組みの成長発展の促進を図る。

実施時期：2014年11月29日（土）

午後1時～同30日（日）正午

会場：放送大学キャンパス・セミナーハウス

1階研修室

参加者：22名

内容：まちづくりで実践しているキーパーソンによる先進事例（帯広・富士宮・奈良の3地域）の紹介のあと、グループワーク等を通じて参加者同士で意見交換をしながら「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」について考え、各人が具体的な計画案までを作成する実践的な研修とする。

事業の成果

北は北海道から南は広島まで、全国各地で「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」に取り組んでいる人たち総勢22名が集まり、先進事例に学びつつ、それぞれの地域で何ができるかを実践的に考え、自ら取り組むべき計画を具体的に作成し、発表しあった。

冒頭の3つの地域の先進的な取り組みの紹介は、参加者にとって大変刺激的なものとなった。

帯広では、過去の実践が評価されて市役所から認知症サポーターの研修事業を受託しているほか、飲料業者から提案を受けて、団体への寄付金付き自動販売機を設置したという。様々な主体と連携しながら、できることに着実に取り組んでいることが印象的だった。

富士宮では、RUN 伴※というイベントに参加したことがきっかけで、関西の団体と交流が深まり、両地域で認知症の人も選手として加わるソフトボールチームを編成し、富士宮市内で対抗試合を行う「Dシリーズ」を実施。RUN 伴とDシリーズでは、いずれも実行委員に認知症の人が参加し、生の声をイベント運営に生かしているとのことだった。

奈良では、富士宮と同様にRUN 伴やDシリーズなどのイベントに参加して培ったネットワークを活かし、北海道の昆布を奈良で認知症の人と一緒に仕分けて販売する仕事を創出。一過性ではなく継続的な活動をめざし、地域の中心に認知症の人もいて、地域の困りゴトから夢を描くことのできる「ムラ」づくりに取り組んでいるという。

これらの事例紹介に触発された参加者は、グループワークで積極的にアイデアを出し合い、最終的に、認知症の人も出演するコンサートや誰でも気軽に立ち寄ることのできる認知症カフェの実施など、具体的な目標を宣言して、それぞれの地域に帰っていった。

※RUN 伴（ラントモ）：認知症になっても安

心して暮らせるまちづくりに賛同する人たちが認知症の有無に関係なく参加し、タスキをつないで日本縦断を目指すイベント。2011年から毎年開催。

■ 成果の広報・公表

研修会当日の様子については、本レポートによって報告する以外は、特に広報・公表を行っていないが、今回の研修会の成果は、全国から集まった参加者が、研修会を通じて学び、考え、自ら作成した計画に基づいて、それぞれの地域で具体的な行動を起こすことによって形となることが想定されている。

研修の主催団体としては、今後、できる限りこれらの活動の展開をフォローし、必要に応じて聞き取りや取材等を行って、団体の発行するメールマガジン（隔月で発行予定）、ニュースレター（年2回発行予定）、アニュアルレポート（年1回発行予定）、ホームページ、フェイスブックなどのさまざまな媒体を活用して紹介するよう努めたい。

また、注目すべき取り組みについては、各種の研修会やイベント等で発表・紹介する機会を設け、他の地域へのさらなる波及を図りたい。

■ 今後の展開

研修の最後に発表された計画の中には、上述のとおり、認知症の人も出演するコンサートや誰もが気軽に参加できる認知症カフェの開催など、具体的で実現可能性の高いものが多く含まれていた。これらの実施にあたっては、先進事例の紹介で示唆されたように、一過性のイベントとして終わらせることなく、そこでの体験をきっかけとして、認知症の当事者と地域の様々な関係者をも巻き込んで継続的な「まちづくり」の取り組みとし

て展開していくことが期待される。

今後、これらの取り組みが着実に実行されるよう支援し、実現されたのちには、さらにこれらの活動を他の地域の人たちにも紹介するとともに相互に学びあうことのできる今回の研修会のような場を継続的に設けることにより、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」の取り組みの波及を促進していきたい。